


理念	子どもの人格を尊重し、子ども一人ひとりに応じた専門療育を行い「将来にわたって、より健やかに生きていく力」を高め「豊かな人間性」を育てる。		
方針	地域における中核的専門機関として、子ども一人ひとりに応じた適切な早期療育及び家族支援を継続的かつ総合的に行えるよう、より一層充実した体制を整え、福祉の向上に貢献する。		
営業時間	9時30分から15時30分まで	送迎の有無	あり 
		主な行事等	入園式、卒園式、運動会、参観日、発表会、遠足、豆まき【毎月】誕生会・身体計測、避難訓練

①健康・生活

- ・子ども一人ひとりの特性に応じた健康状態の把握に努め、保護者や関係機関と連携を図りながら適切に支援する。
- ・給食を提供し、※専門職とともに摂食時の姿勢や自助具の使用、口腔機能に関する支援を行う。
- ・食事、排泄、着脱などの基本的な生活習慣の習得に向け、個々に応じた視覚支援（実物・写真・イラスト・手順書）を取り入れ、実践する。
- ・構造化（刺激の統制・活動内容と場所の明確化）により、子ども自身が自発的に行動できるように環境面を調整する。



②運動・感覚

- ・理学療法士、作業療法士と連携し、1人ひとりに応じた身体移動や歩行・姿勢の保持など、日常生活に必要な運動能力向上のための支援を活動を通して行う。また補助用具等の補助的な手段も活用し支援を行う。
- ・運動あそびやいろいろな活動を経験していく中で、身体の使い方や手先の操作を高めていく。
- ・子どもの発達段階や特性に配慮した、視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用した活動や遊びを行う。



③認知・行動

- ・日常生活場面やいろいろな活動を通じて、物の機能や属性、形・色などの概念の習得のため、こどもの発達段階に応じて具体的な働きかけを行う。
- ・視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用し、認知機能の発達を促すため制作活動や運動遊び（感覚統合運動）のプログラムを取り入れる。
- ・感覚や認知の偏りなどの行動に対して事前に環境調整などを行い、適切な行動の獲得に向けた支援を行う。



本人支援

④言語・コミュニケーション

- ・興味関心などに応じて、言語によるコミュニケーションだけでなく、表情やジェスチャー等のサインを選定し、伝達できる機会を積み重ねていけるように支援する。
- ・子どもの発達段階に応じて、相手の意図を理解したり、自分の考えを伝えたりするなど、言語を受容し、表出することができるように支援する。
- ・指差し、ジェスチャー等を用いて、自分の思いを伝えたり、多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と意思の伝達ができるように支援する。



家族支援

- ・親子療育（運動遊び・ミュージックセラピー）
- ・クラス懇談会・保護者交流会
- ・父親の会・きょうだい児支援
- ・個人面談・家庭訪問
- ・保護者対象の施設内研修
- ・ペアレントメンター相談会



⑤人間関係・社会性

- ・子どもが人との関係を意識し、基本的な信頼感を持つことが出来るように環境や身近な人に対する安心感を得たり、自分に対する信頼感や自尊心も育めるようにする。
- ・自分の感情が崩れたり、不安になった時に、相談することで安心感を得たり、自分の感情に折り合いをつけたりできるよう支援する。
- ・遊びを通じて人の動きを模倣したり、見立て遊びやごっこ遊びをすることにより、社会性や対人関係の芽生えを促していく。
- ・集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団生活に参加できるよう環境調整をしたり、かかわり方の提案を行い、仲間づくりにつながるように支援する。



地域支援・地域連携

- ・保育所等訪問支援・地域資源を利用した買い物や外食体験
- ・地域の方のご協力でのじゃがいも掘り・さつまいも掘りの体験
- ・幼稚園・保育園・地域の児童発達支援事業所の職員に向けた事例検討会や研修会の開催等
- ・併行通園児に対する施設支援やサービス担当者会議への参加等



移行支援

- ・就学児・就園児・他事業所の利用児に対しての引継ぎやフォロー
- ・保育所等訪問支援事業の情報提供など



職員の質の向上

- ・外部講師を招いた研修会（摂食・感覚統合・視覚支援・構造化等）
- ・他の専門職※と連携したケース検討会議
- ・ティーチャーズトレーニング
- ・虐待の防止や身体拘束に関する研修会
- ・BCP、安全計画に則した研修会や訓練の実施
- ・外部の研修会への積極的な参加



※専門職（言語聴覚士・理学療法士・作業療法士・栄養士）